



日本一の健康長寿県構想

県民が健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすために

第 2 期

(H24~H27)

平成24年2月15日

高 知 県

第2期「日本一の健康長寿県構想」 策定にあたっての「基本的な考え方」

この構想は、県民の皆様が、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けることができる高知県を目指して、保健、医療、福祉の各分野の本県の弱みを分析し、これまで取り組んできた施策に新たな取り組みも加えて、平成22年2月にとりまとめました。

策定後の様々な変化に的確に対応しながら、より政策効果が上がるように、毎年見直しを行うこととしており、今回は「4年後、10年後の目指す姿を明らかにし、県民と成功イメージを共有する。」ことなど、次の6つの視点で大きくバージョンアップを行いました。

これからの4年間で「第2期」として位置づけたうえで、関係者の皆様のご協力を賜りながら、全力で取り組んでまいります。

- その1 4年後、10年後の目指す姿を明らかにし、県民と成功イメージを共有する！
- その2 県民ニーズへの対応やPDCAサイクルによる検証を通じて、個々の取り組みをバージョンアップさせる！
- その3 地域で活躍する人材の育成により、県民との協働を加速化させる！
- その4 「あったかふれあいセンター」と「集落活動センター」との一体的な取り組みなど、ともに支え合う中山間対策を強化する！
- その5 防災の視点を加え、南海地震対策を加速化・強化し、県民の安全、安心の実現を目指す！
- その6 福祉保健所のチャレンジプランとして、地域の課題や特徴に対応した取り組みを進める！

目次

～日本一の健康長寿県構想の推進によって目指す本県の姿～

1. 日本一の健康長寿県構想の取り組みの総括表【P1】
2. 目指す10年後の姿（全体像、年代別）【P2】
3. 保健・医療・福祉の分野別の目指す4年後、10年後の姿【P4】

I 県民自らが病気を予防し、生涯を健康に暮らす【P8】

1. 県民の健康状態・疾病の現状と課題【P9】
2. 今後の重点取り組み
 - (1)周産期と乳児の死亡率の改善【P12】
 - ア. 母体管理の徹底【P13】
 - イ. 周産期医療体制の確保【P14】
 - (2)がん対策の推進【P15】
 - ア. がん予防の推進【P16】
 - イ. がん検診の受診促進（40代、50代への重点的な取り組み）【P18】
 - ウ. 包括的ながん医療の推進
～高知県がん対策推進計画に基づく施策を加速度的に実施～【P19】
 - (3)心疾患・脳血管疾患対策の推進【P20】
 - ア. 心疾患・脳血管疾患対策のための特定健診の受診促進【P21】
 - イ. 総合的な慢性腎臓病(CKD)対策の推進【P23】
 - ウ. 心疾患・脳血管疾患対策のための医療体制の整備【P24】
 - (4)自殺・うつ病対策の推進【P25】
 - (5)日々の健康づくりの推進
～「よさこい健康プラン21」に基づく施策を加速度的に実施～【P28】
 - ア. 歯科保健対策の推進【P29】
 - イ. たばこ対策の推進【P30】
 - ウ. 生活習慣病の予防と改善のための広報・啓発【P31】

II 県民とともに医療環境を守り育てる【P32】

1. 本県の医療を取り巻く現状と課題
 - (1)県内の医師の現状と課題【P33】
 - (2)看護職員の現状と課題【P34】
 - (3)医療提供体制の現状と課題【P35】
 - (4)へき地医療の現状【P36】
 - (5)救急医療体制の現状と課題【P37】

2. 今後の重点取り組み

- (1)医師確保対策の推進【P38】
- (2)看護職員の確保対策の推進【P43】
- (3)連携による適切な医療体制の確保【P44】
 - ア. 病期に応じた医療連携体制の構築【P45】
 - イ. 在宅医療の推進【P46】
 - ウ. へき地医療の確保【P47】
- (4)救急医療体制の整備【P48】
 - ア. 救急医療機関の機能維持【P49】
 - イ. 救急医療体制の推進【P50】
- (5)県下全体の中核病院としての高知医療センターの機能充実【P51】
- (6)地域の中核病院としての県立あき総合病院の機能充実【P53】
- (7)地域の中核病院としての県立幡多けんみん病院の機能充実【P54】

III ともに支え合いながら生き生きと暮らす「高知型福祉」の実現【P55】

1. 本県の福祉を取り巻く現状と課題【P56】
2. 高知型福祉の実現に向けた政策の4本柱と主要施策【P63】
 - (1)ともに支え合う地域づくり
～新しい支え合いのカタチ～【P64】
現状・目指す方向・これからの取組
 - (2)高齢者が安心して暮らせる地域づくり
～元気イキイキ、みんな長生き～【P77】
現状・目指す方向・これからの取組
 - (3)障害者が生き生きと暮らせる地域づくり
～ともにかがやき、ともに暮らす～【P92】
現状・目指す方向・これからの取組
 - (4)次代を担うこども達を守り育てる環境づくり
～まち、むら、こどもたちでいっぱいこ～【P101】
現状・目指す方向・これからの取組

IV 人材育成・確保の取り組み【P107】

V 中山間対策の加速化・強化の取り組み【P111】

VI 南海地震対策の加速化・強化の取り組み【P114】

VII 各福祉保健所のチャレンジプラン

～地域の課題や特徴に対応した取り組み～【P128】

I 県民自らが病気を予防し、生涯を健康に暮らす

周産期死亡率・乳児死亡率の改善
～安全・安心な出産環境づくり～

- 母体管理の徹底
- 周産期医療体制の確保

壮年期の死亡率の改善
～働き盛りの健康づくり～

- がん対策の推進
(がん予防、検診受診率の向上等)
- 心疾患・脳血管疾患対策の推進
(特定健康診査の受診率の向上等)
- 自殺対策の推進

生涯を通じた県民の健康づくりを推進する。特に、全国に比して悪い、周産期と乳児の死亡率や壮年期の死亡率の改善を重点的に推進



よさこい健康プラン21の推進
～健康づくり県民運動～

- 運動の推進
- 栄養・食生活の改善
- たばこ対策【重点項目】
- 歯の健康の推進【重点項目】
- こころの健康の推進
- 特定健診・特定保健指導の推進

※関連する計画 ・よさこい健康プラン21(第2期H20～H24) ・高知県がん対策推進計画(H20～H24)
・高知県食育推進計画(H19～H24) ・高知県自殺対策行動計画(H21～H28)
・高知県歯と口の健康づくり基本計画(H24～H28)

II 県民とともに医療環境を守り育てる

医師・看護職員の確保
～医師等のキャリア形成を支える体制づくり～

- 若手医師の減少への対応
- 医師の地域偏在への対応
- 医師の診療科間の偏在への対応
- 急性期病院や中山間地域等での看護職員の確保
- 看護教員の研修体制の整備

連携による適切な医療体制の確保
～地域で適切な医療を受けられる体制づくり～

- 病期に応じた医療連携体制の構築
- 在宅医療の推進
- へき地医療の確保

「高知医療再生機構」を核に、強力に推進

県民が安心して医療を受けられる環境づくりに取り組む。特に、医師の確保を始めとした医療提供体制の整備を重点的に推進



救急医療体制の整備
～必要な救急医療を受けられる体制づくり～

- 救急医療機関の機能維持
- 救急医療体制の推進

高知医療センターと県立病院の機能充実
～中核病院として地域の医療を支える～

- 県全体の中核病院としての高知医療センターの機能充実
- 地域の中核病院としての県立あき総合病院、幡多けんみん病院の機能充実

※関連する計画
・第5期高知県保健医療計画(H20～H24)(第6期H25～H29予定)
・高知県地域医療再生計画(H21～H25)

日本一の健康長寿県構想

～県民が健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らせる県づくり～

南海地震への備え

III ともに支え合いながら生き生きと暮らす「高知型福祉」の実現

ともに支え合う地域づくり
～新しい支え合いのカたち～

- 地域福祉計画等の推進
- あったかふれあいセンターの機能強化
- 民生委員・児童委員活動の充実
- 福祉を支える担い手の育成と確保
- 自殺・うつ病対策の推進
- ひきこもり自立支援対策の推進



高齢者が安心して暮らせる地域づくり
～元気イキイキ、みんな長生き～

- 介護予防と生きがいづくりの推進
- 地域包括ケアシステムの構築
- 地域における認知症の人と家族への支援
- 介護サービスの充実・確保
- 福祉・介護人材の確保対策



県民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる高知型福祉の実現

こどもから高齢者、障害者などすべての県民が、ともに支え合いながら生き生きと暮らすことができる地域づくりを推進

障害者が生き生きと暮らせる地域づくり
～ともにかがやき、ともに暮らす～

- 障害福祉サービスの確保・充実
- 障害者の就労促進と施設利用者の工賃アップ
- 発達障害者への支援体制づくり
- 精神科医療の充実



次代を担うこども達を守り育てる環境づくり
～まち、むら、こどもたちでいっぱい～

- 児童虐待への対応
- 少子化対策の推進



※関連する計画 ・高知県地域福祉支援計画(H22) ・高知県自殺対策行動計画(H21～H28) ・高知県高齢者保健福祉計画及び高知県介護保険事業支援計画(第5期 H24～H26)
・高知県地域ケア体制整備構想(H20～H47) ・高知県障害者計画(H15～H24) ・高知県障害福祉計画(第3期 H24～H26)
・高知県工賃向上計画(H24～26) ・高知県ひとり親家庭等自立促進計画(H24～H28) ・こうちこどもプラン(後期計画 H22～H26)

県民が健やかで心豊かに、 支え合いながら生き生きと暮らす「日本一の健康長寿県」

保健分野

県民一人ひとりが自分の健康について考え、行動するとともに、各地域で家族や仲間の健康を気遣う機運が醸成されています。

一緒に
検診へ行こう！



従業員やその家族の健康にも気をつけています。

たばこをやめて、体調もいいぞ！



自分の歯で、おいしく食べて健康です。



医療分野

どの地域でも安心して医療が受けられ、いざという時の救急医療体制も整備されています。

住民の皆さんとともに地域の医療を守っています。



こども救急ダイヤルがあるから、急病時も安心です。



地域福祉の拠点！
なくてはなりません

あったかふれあい
センター



介護サービスが充実！
安心して暮らせるなあ。



目指すよ！
元気に100歳



発達障害の
早期診断・早期療育
で安心を届けます。



見守ってくれて
ありがとう。



虐待のない社会を

こんな遠くまで
来てくれて
ありがとう。



安心して
子育て
できるわ！



それぞれの地域で、こどもから高齢者、障害者などすべての県民が、ともに支え合いながら生き生きと暮らしています。

福祉分野

絆

安全
安心

南海地震への備え



こども



保健

乳児死亡率の改善など、こどもの命や健康が守られています。



福祉

地域ぐるみでこどもを見守ることで、児童虐待が減少しています。
発達障害などの可能性があるすべてのこどもをきちんとフォローできています。



医療

若手医師が増加し、県内全域で活躍しています。
病気の種類や症状に応じて必要な医療が受けられます。
どの地域でも迅速で確実な救急医療が受けられます。

働き盛り



保健

健康管理に取り組む人が増え、壮年期の過剰死亡が改善しています。



福祉

子育て家庭が気軽に交流・相談できる場があり、保育サービス等も充実して、安心して子育てができています。



保健

健康的な生活習慣を身につけた活動的な高齢者が増えています。



福祉

県内どこに住んでいても必要な介護サービスが受けられ、安心して暮らしています。



高齢者



I 県民自らが病気を予防し、生涯を健康に暮らす

生涯を通じた県民の健康づくりを推進する。

特に、全国に比して悪い、周産期と乳児の死亡率や壮年期の死亡率の改善を重点的に推進

4年後の姿

10年後の姿

周産期死亡率・乳児死亡率の改善 ～安全・安心な出産環境づくり～

- 母体管理の徹底
- 周産期医療体制の確保

詳細p12～

- 周産期死亡率の低さが、全国上位の水準を維持している。
- 乳児死亡率が全国平均以下になっている。
- 県内で安全・安心な出産ができる周産期医療体制が確保されている。
 - ・NICU病床:18→24床(稼働率80%以下)

- 周産期死亡率の低さが、全国上位の水準を維持している。
- 乳児死亡率が全国平均以下を維持している。

壮年期の死亡率の改善 ～働き盛りの健康づくり～

- がん対策の推進
(がん予防、検診受診率の向上等)
- 心疾患・脳血管疾患対策の推進
(特定健康診査の受診率の向上等)
- 自殺対策の推進

Ⅲ 福祉分野に記載

詳細p15～

- 県民が、予防できるがんへの対策に取り組んでいる。
 - ・中1生の子宮頸がんワクチン接種率:90%以上
 - ・ウイルス性肝炎の認知度が向上し、肝炎検査の陽性者は適切な治療を受けている。
- がん検診や特定健診の意義や重要性が浸透し、受診行動に結びついている。
 - ・がん検診や特定健診の同時実施など、受診しやすい環境の整備が進んでいる。
 - ・保険者、かかりつけ医、事業主、健康づくり団体等からの受診の呼びかけが積極的に行われている。
 - ・がん検診受診率:50%以上
 - ・特定健診受診率:全国平均以上
 - ・慢性腎臓病の認知度が向上し、保健師やかかりつけ医等から指導が行われている。

- 壮年期の世代が、健康管理を意識した行動をとり、過剰死亡が全国平均以下となる。
 - ・40-50歳代のがん、心疾患、脳血管疾患による死亡率が減少している。
 - ・20歳代の子宮頸がんの発症者:0人

よさこい健康プラン21の推進 ～健康づくり県民運動～

- 運動の推進
- 栄養・食生活の改善
- たばこ対策【重点項目】
- 歯の健康の推進【重点項目】
- こころの健康の推進
- 特定健診・特定保健指導の推進

詳細p28～

- 県民が生活習慣を変えることの大切さに気づき、健康づくりを実践している県民が増えている。
 - ・歯と口の状態
 - こどもの1人平均むし歯本数:1本以下
 - 40歳代の進行した歯周病罹患率:20%以下
 - ・喫煙率:男性25%、女性5%
 - ・飲食店(※)における禁煙・分煙の実施割合:35%以上
(※居酒屋等成人を対象とした店舗を除く)

- 県民一人ひとりが自らの健康状態を十分に把握し、生活習慣病の予防に取り組むことで、各種健康指標が改善している。
 - ・歯と口の状態
 - こどもの1人平均むし歯本数:0.5本以下
 - 40歳代の進行した歯周病罹患率:15%以下
 - 「8020」達成者の割合:40%以上
 - ・非喫煙率:男女とも全国上位
 - ・飲食店(※)における禁煙・分煙の実施割合:50%以上(※居酒屋等成人を対象とした店舗を除く)

※関連する計画 ・よさこい健康プラン21(第2期H20～H24) ・高知県がん対策推進計画(H20～H24) ・高知県食育推進計画(H19～H24)
・高知県歯と口の健康づくり基本計画(H24～H28) 4・高知県自殺対策行動計画(H21～H28)

Ⅱ 県民とともに医療環境を守り育てる

県民が安心して医療を受けられる環境づくりに取り組む。
特に、医師の確保をはじめとした医療提供体制の整備を重点的に推進

4年後の姿

10年後の姿

医師・看護職員の確保

～医師等のキャリア形成を支える体制づくり～

- 若手医師の減少への対応
- 医師の地域偏在への対応
- 医師の診療科間の偏在への対応
- 急性期病院や中山間地域等での看護職員の確保
- 看護教員の研修体制の整備

詳細p38～

- 医師の偏在が緩和されている。
 - ・若手医師の県内定着率が向上し、40歳未満の医師の減少に歯止めがかかっている。
 - ・安芸、高幡、幡多保健医療圏の医師の偏在が緩和されている。
 - ・中央保健医療圏以外の小児科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科診療科などの診療科における医師の偏在が緩和されている。
- 看護職員の確保が進んでいる。
 - ・県内の主な急性期病院や中山間地域で働く看護職員を一定数確保できている。

- 若手医師の県内定着率の向上等により、若手医師の減少や地域・診療科間の医師の偏在が解消されている。
- 急性期病院や中山間地域においても、看護職員の確保が可能な状況になっている。

連携による適切な医療体制の確保

～地域で適切な医療を受けられる体制づくり～

- 病期に応じた医療連携体制の構築
- 在宅医療の推進
- へき地医療の確保

詳細p44～

- 地域で適切な医療を受けられる体制づくりが進んでいる。
 - ・医師、歯科医師、訪問看護師、訪問薬剤師、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカーなどの多職種による連携が進んでいる。
 - 症状の安定した患者が県中央部の高度医療機関から居住地の病院・介護施設等に円滑に移行できている。
 - 在宅医療の選択ができる地域が増えている。
 - ・へき地での医療が維持されている。

- 二次保健医療圏において病期に応じた必要な医療を受けられるとともに、在宅医療が選択できる環境が整っている。
- 県、市町村、大学、住民の連携により、県内のへき地医療が維持・確保されている。

救急医療体制の整備

～必要な救急医療を受けられる体制づくり～

- 救急医療機関の機能維持
- 救急医療体制の推進

詳細p48～

- ドクターヘリ要請後ほぼ30分以内に医師による救急医療が提供できるなど、救急医療体制の充実が図られている。
 - ・救急医療の適正受診に対する県民の理解が進んでいる。
 - ・休日・夜間の救急医療体制が維持されている。
 - ・郡部の救急医療機関に勤務する医師が増加している。
 - ・県下全域でヘリコプター着陸場所の確保が進んでいる。
 - ・確実なメディカルコントロールの下での最適な搬送先や搬送手段の選定が進んでいる。

- どの地域に住んでいても、迅速確実な救急医療を受けられる体制が確立されている。

高知医療センターと県立病院の機能充実

～中核病院として地域の医療を支える～

- 県全体の中核病院としての高知医療センターの機能充実
- 地域の中核病院としての県立あき総合病院、幡多けんみん病院の機能充実

詳細p51～

- 政策医療・高度医療機能の充実が図られている。
 - ・高知医療センターが、救急、周産期、精神科、災害時医療などの政策医療、がんや急性心筋梗塞などの高度医療の中核病院として、専門医の人材育成に対応できる病院として機能を発揮している。
 - ・あき総合病院が、救急医療など安芸保健医療圏の医療を支える中核病院、若手医師の育成拠点として充分機能している。
 - ・幡多けんみん病院が、地域がん診療連携拠点病院など地域の中核病院として、幡多保健医療圏でほぼ完結できる医療を提供している。

- 高知医療センターが県全体の中核病院、県立病院が二次保健医療圏の中核病院として、県民のニーズに応える医療を提供している。
- 専門医・若手医師の人材育成機能、災害時における医療救護活動の拠点機能の発揮により、県内医療機関の医療提供体制の維持・充実をバックアップしている。

Ⅲ ともに支え合いながら生き生きと暮らす 「高知型福祉」の実現

県民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる高知型福祉の実現
こどもから高齢者、障害者などすべての県民が、ともに支え合いながら生き生きと暮らすことができる地域づくりを推進

4年後の姿

ともに支え合う地域づくり
～新しい支え合いのカたち～

- 地域福祉計画等の推進
- あったかふれあいセンターの機能強化
- 民生委員・児童委員活動の充実
- 福祉を支える担い手の育成と確保
- 自殺・うつ病対策の推進
- ひきこもり自立支援対策の推進

詳細p64～

- 旧市町村に1箇所以上あったかふれあいセンターを整備している。
 - ・あったかふれあいセンターを中心に、地域での見守り、支援のネットワークづくりが進んでいる。(H27年には県下34市町村で53箇所以上を整備)
 - ・あったかふれあいセンターと集落活動センターが融合した取り組みが行われている。
- 地域福祉アクションプランに基づき、地域の支え合い活動が活発に行われている。
 - ・県下全市町村で地域福祉アクションプランが策定され、その実践活動が活発に行われている。
 - ◆H23：20市町村 → H27：34市町村
- 民生委員・児童委員による見守り活動等が活発化している。
 - ・県内全市町村で民生委員・児童委員サポーター制度が導入され、民生委員・児童委員の活動を支える体制ができています。
 - ◆民生委員・児童委員サポーター（福祉委員等）
H23：11市町村 約1,000人 → H27：34市町村 約2,500人
- 悩みを抱えた人が、適切な相談や支援が受けられる重層的な相談支援体制ができ、自殺者が減少している。
 - ・いのちの電話が365日24時間の相談体制となっている。
 - ◆365日体制（24時間体制は月1回） → 365日24時間体制に
 - ・自殺死亡率が全国平均以下となっている。
 - ◆人口10万人当たり 25.9（H22） → 23.7以下

10年後の姿

- 官民協働の支え合いの活動が活発に行われ、それぞれの地域で人と人との絆が結ばれて、県内にそのネットワークが大きく広がっている。

高齢者が安心して暮らせる地域づくり
～元気イキイキ、みんな長生き～

- 介護予防と生きがいづくりの推進
- 地域包括ケアシステムの構築
- 地域における認知症の人と家族への支援
- 介護サービスの充実・確保
- 福祉・介護人材の確保対策



詳細p77～

- 住民主体の介護予防がすべての市町村で取り組まれている。
 - ・介護予防手帳を活用して養成した地域リーダーによる、住民主体の活動が各地域で行われている。
 - ◆地域リーダー 2,700人 → 3,600人
- 必要な介護サービスが確保され、地域包括ケアの構築が進んでいる。
 - ・レスパイトを含め、必要な時にショートステイが利用できている。
 - ◆ショートステイベッド 550床 → 850床
 - ・特別養護老人ホームでのサービスが必要な人が、円滑に入所できている。
 - ◆特別養護老人ホーム 3,703床 → 4,380床
- 認知症の早期診断・早期対応と、地域で認知症の人と家族を支える体制ができつつある。
 - ・圏域ごとに認知症疾患医療センターが設置され、県内全域で認知症の専門医療が受けられる。
 - ◆認知症疾患医療センター
地域型1か所 → 基幹型1か所、地域型5か所
 - ・すべての地域で認知症の人と家族を支援する体制が整い、安心して介護ができています。
 - ◆家族の集いの場：すべての市町村又は福祉保健所で年1回以上開催
 - ◆認知症サポーター 12,649人 → 20,000人以上

- 県民みんなが自ら進んで介護予防や、生きがいづくりに取り組んでいる。
- たとえ介護が必要になっても、ニーズに応じた介護サービスを受けられ、安心して暮らせるようになっている。

4年後の姿

10年後の姿

障害者が生き生きと暮らせる地域づくり
～ともにかがやき、ともに暮らす～

□障害福祉サービスの確保・充実

□障害者の就労促進と施設利用者の工賃
アップ

□発達障害者への支援体制づくり

□精神科医療の充実



詳細p92～

- 必要な障害福祉サービスが確保され、地域で安心して生活できている。
 - ・生活介護や就労支援などの地域生活を支える障害福祉サービスが増えている。
 - ◆通所サービス 2,709人分 → 3,600人分
 - ・グループホーム等の整備が進み、地域で生活できるようになっている。
 - ◆グループホーム・ケアホーム 905人分 → 1,400人分
- 障害のある人が、その障害の程度や特性に応じて働くことができる。
 - ・ハローワークにおける就職件数 418件/年 → 500件/年
 - ・経済的自立に向けた工賃目標 (32,000円/月) を達成している施設が増えている。
 - ◆工賃が32,000円/月以上の施設 6施設 → 25施設
- 障害のあるこどもの早期発見・早期診断・早期療育ができています。
 - ・発達障害の専門医師が増え、早期発見・早期診断ができています。
 - ◆発達障害の専門医師 4人 → 20人
 - ・児童発達支援センターの整備が進み、身近な地域で専門的な療育支援が行われている。
 - ◆児童発達支援センター 11か所 → 24か所
- 精神科医療体制が充実し、精神疾患のある人が地域で適切な医療を受けられるようになっている。
 - ・高知医療センターと民間病院等の精神科地域連携パスにより、状態に応じてより適切な精神科医療が受けられる体制となっている。
 - ・発達障害など、子どもの心のケアにかかわる関係機関の連携体制が構築され、児童精神科の専門的な医療が提供されている。

- すべての障害のある人が、住み慣れた地域で、障害特性に応じて必要なサービスや医療が受けられ、安心して暮らせるようになっている。

次代を担う子ども達を守り育てる環境づくり
～まち、むら、子どもたちでいっぱい～

□児童虐待への対応

□少子化対策の推進



詳細p101～

- 児童相談所による児童虐待や各種相談への対応が、迅速かつ適切に行われている。
 - ・児童相談所職員の専門性とチーム対応力の向上により、迅速で適切な虐待対応等ができています。
- 要保護児童対策地域協議会の活動が活発になっている。
 - ・関係機関の連携のもと、地域の中で要保護児童等の早期発見ときめ細かな対応が行われている。
- 働きながら安心して子育てができる環境が整いつつある。
 - ・保育所の閉所後や休日、こどもの病気の時など、仕事の都合でこどもをみれない時でも、各地域に、こどもを預かってくれる場所が増えている。
- 子育ての孤立感や不安感が軽減されている。
 - ・地域子育て支援センターや子育てサークルなど、気軽に集い、交流・相談できる場が増えている。
- 独身者の多様なニーズに応じた出会いの機会が提供されている。
 - ・県（県主催のイベントや婚活サポーター）や市町村、民間団体を中心とした出会いの場の提供が増えている。

- 地域ぐるみで、虐待の早期発見・早期対応がなされ、深刻化を防ぐとともに、虐待件数そのものも減少している。
- 県民総ぐるみでの少子化対策が進み、各地域で、独身者支援が行われるとともに、共働きの家庭も、そうでない家庭も、安心して子育てができる環境が整っている。

※関連する計画
・高知県地域福祉支援計画（H23～28）
・高知県地域ケア体制整備構想（H20～H47）
・高知県工賃向上計画（H24～26）

・高知県自殺対策行動計画（H21～H28）
・高知県障害者計画（H15～H24）
・高知県ひとり親家庭等自立促進計画（H24～H28）

・高知県高齢者保健福祉計画及び高知県介護保険事業支援計画（第5期 H24～H26）
・高知県障害福祉計画（第3期 H24～H26）
・こうちこどもプラン（後期計画 H22～H26）